

ななくり

The goal of our education is to clear 70 points in total

田迎小学校 学校だより

文責 藤本

第 9 号

2022.1.18



わかりやすさの功罪

「CO₂が増えるとホッキョクグマが絶滅する」

地球温暖化を訴えるときによく目にするキャッチフレーズです。しかし実は、温暖化についての原因は、はっきりとはしていないのが科学的な知見です。

確かに CO₂ は人間の生産活動において排出されることが多い物質ですが、「カーボンニュートラル」といった二酸化炭素を削減する取り組みも 空気中の CO₂ の成分が 0.04% から見れば、微々たる割合です。

また、地球の歴史は 46 億年以上、人類の歴史が 5000 年程度。いわば 90 倍以上期間が違うわけですから、これまでの人間の活動だけが平均気温の上昇（下降）の要因でないことは確実です。（地球はこれまで 10 万年単位の氷河期を 4 度繰り返してきているといわれています）ではなぜ、冒頭のような「キャッチフレーズ」が、北極の氷が崩れ落ちる映像ややせ細ったシロクマの映像とともに流されるのでしょうか？

きっと（政治的な思惑はともかく）「わかりやすい」からだと思います。

人間の脳は、とにかく「複雑化」を嫌います。

シンプルで単純であることを好むようにできています。 思考停止はその最たる形です。

そのため地球温暖化（人為的であるかどうかはさておき）の原因が、水蒸気量、メタンガス量、宇宙線量…と、いくつか挙げるより、「二酸化炭素量」としてしまっただ方が 報道する上で極めて都合がよい のです。

これは、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の報道にもいえます。ニュースでは「感染者数」を絶対的な基準として（不安を駆り立てるように）できるだけセンセーショナルなニュースにします。

厚生労働省の HP をみればわかるように、本来、あの数字は「PCR 検査を受けて、陽性反応が出た人（陽性者）の数」のはずです。

ちなみに、陽性者、感染者、患者は次のように区別されます。参照：厚生省「新型コロナウイルス感染症の“いま”に関する 11 の知識（PDF）」

- ・陽性者…ウイルスが体内に入っている（いた）人
- ・感染者…ウイルスが体内の細胞に侵入し、定着・増殖した人
- ・患者（発症者）…発症した人

インフルエンザなどの感染症は【患者数】だけが問題になります。そのため「免疫力アップ」で発症を防ぐことは極めて有効です。しかし、COVID-19 だけは、なぜか「感染者」の数だけが取り上げられます。

個人の免疫力が高く、無症状で終わっても、10 日前後、自宅待機を強いられる ところに難しさを感じます。ウイルスに関する未知の部分があるため…とは思いますが、私たちは科学的知見をもって、情報に

接していきたいものです。

日本はマスコミにしても、官僚、（総理）大臣にしても、いわゆる文系学部出身者が大半を占めています。そのため、「わかりやすくコミュニケーションをとりながら」伝達していくことには長けています。

一方、理系的な考え方（分析的・論理的・定量的…）についてはやや苦手なのではないでしょうか。

「有識者会議」において、科学的知見に基づいて正確に説明されても、要因や分析、条件に応じた結果など「複雑で多様」な内容をそのまま理解することは、一部の行政やマスコミ関係者には難しいところがあります。そのため「結局、どういうことなのか」を冒頭のキャッチフレーズのようにまとめてしまうのではないのでしょうか。特に情報番組では「インパクト」が優先されますので、一部を拡大して「わかりやすく」報道することがよくあることは、周知のとおりです。

たしかに【田迎校区の面積は約 1.8 km²である】というより【東京ドーム 4 つ分】といった方が広さのイメージがしやすいですね。

しかし、何かに例えて説明されることは「わかりやすい」のですが、「正確」でないことはたくさんあります。

私たちと子供とのかかわりも同じなのではないでしょうか。

「やる気スイッチ」なるものがあれば、親も教師もポチッと押すだけで楽です。が、実際にそんな「わかりやすい」ものはありません。

「100 点を取ったら、ゲームカセットを買ってやるぞ」といった わかりやすい報奨制 で一時的にやる気を出させても、褒美がなかったら、ほめられなかったら何もしないようになります。要求はどんどんエスカレートしていきます。結果、家の中に「小さな王様」「小さなお姫様」が誕生します。

昔、何かの講演で【「朝起きについて注意すると、子供が不機嫌になるんです。」と真面目に学校に訴える保護者がいました。その子はまるで、親を家来のように扱ってお殿様のようなのでした。】という話を聞いたこともあります。

反対に、虐待（暴力）の手段で子どもに接することも「わかりやすい」対応法です。

子どもの行動や考えは、大人が思う以上に複雑です。特に不機嫌な子供に接するのは、かなりエネルギーがいります。

でも、報償や虐待という「わかりやすい」方法で子供をコントロールすることに逃げず、時間をかけて対応する覚悟 が大人には必要なのだと思います。